旧鈴木家屋敷跡（万斛西遺跡）
第２次調査
現地説明会資料

2014 年 11 月 15 日

浜松市文化財課

◆　旧鈴木家屋敷跡（万斛西遺跡）について

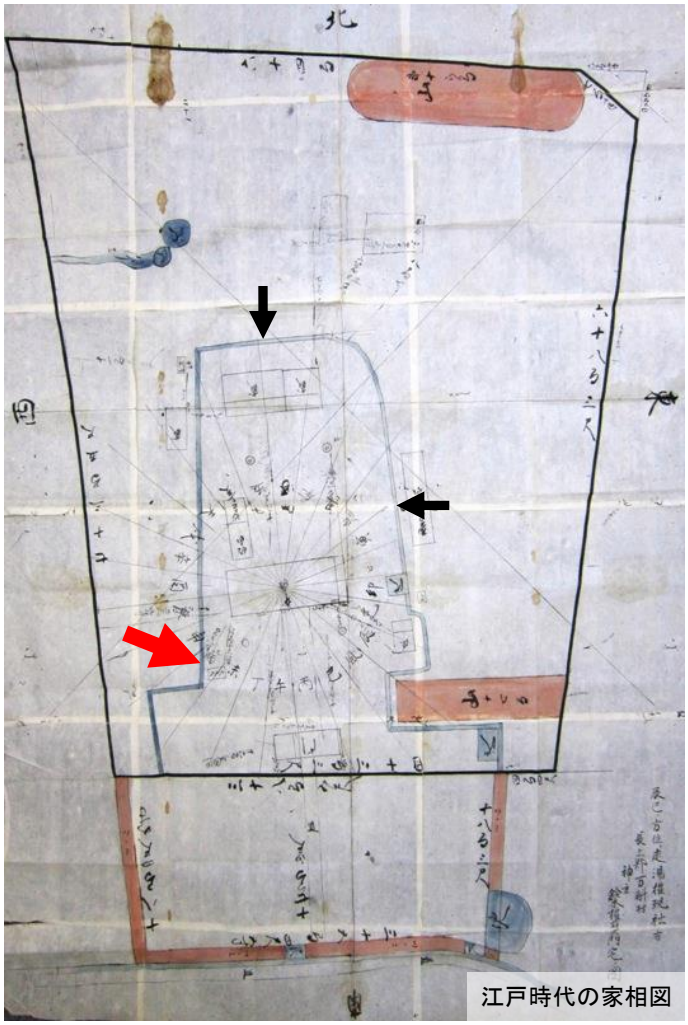
旧鈴木家屋敷跡は、江戸時代に万斛村の庄屋として活躍した、鈴木権右衛門家の屋敷跡です。鈴木家は、浜松藩内の庄屋の中でも、直接藩主に拝謁することが許される「独礼庄屋」（どくれいしょうや）の筆頭として厚遇された由緒ある家柄です。江戸時代末期に書かれた家系図によれば、鈴木家の初代良宗は応永 2 年（1395 年）没とされ、室町時代までその系譜を辿ることができます。万斛地区の有力者として、歴代浜松城主との関係は深く、徳川家康やその側室阿茶局との関わりがあったとの伝承があります。

鈴木家の屋敷は長らく無住の地となっていましたが、地域の憩いの場や集いの場に役立ててほしいとの思いから、平成 22 年（2010 年）に所有者から浜松市へ土地と建物が寄付されました。この寄付を受け、浜松市では旧鈴木家屋敷跡の歴史的価値を解明する各種調査と、今後の整備と活用に向けた協議を地元地域と連携しながら進めています。

◆　調査成果

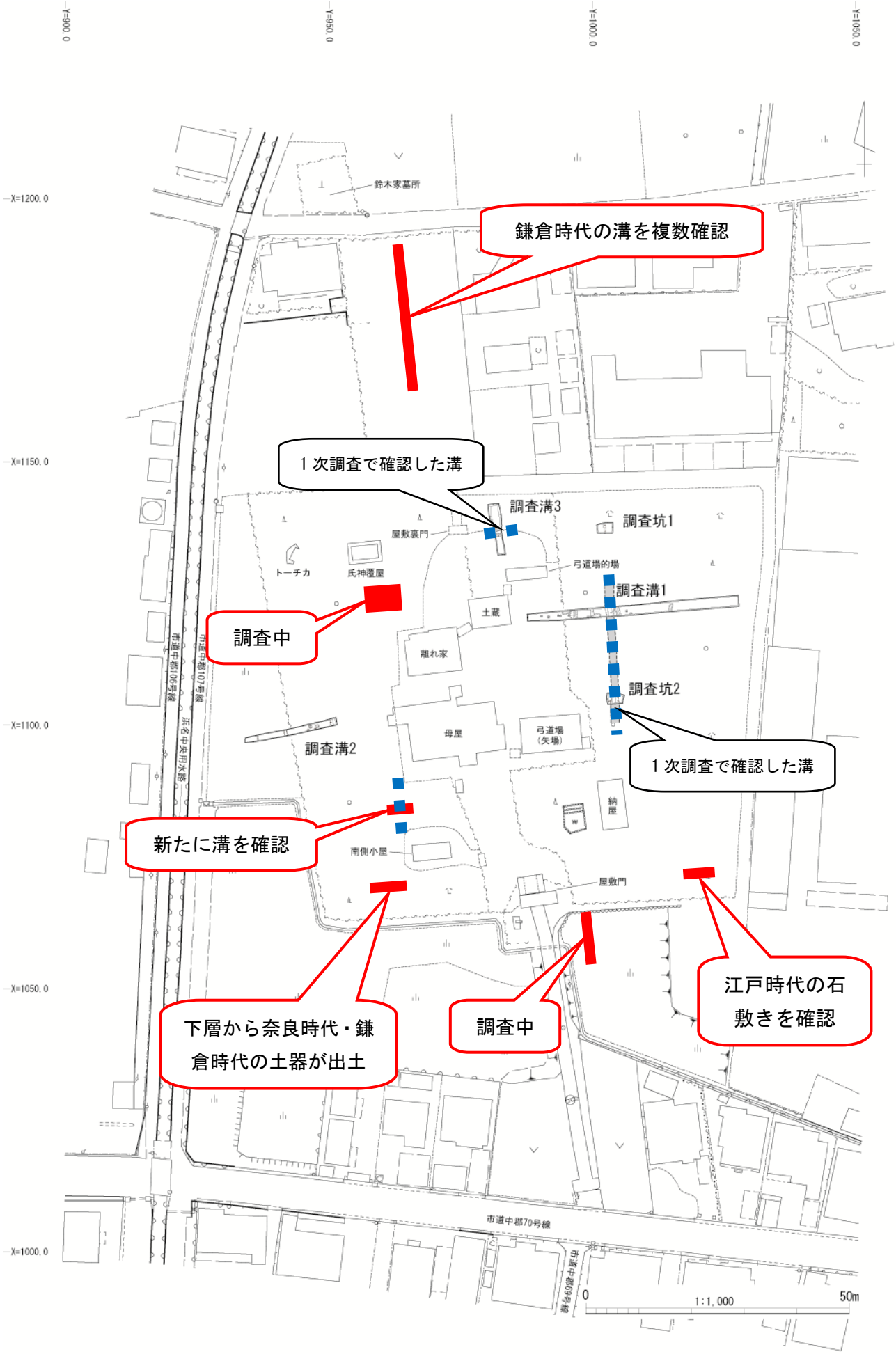
今回の発掘調査では、屋敷跡の西側で南北方向に掘削された溝が新たに見つかりました。溝は母屋の西側を沿うように掘られていることから、屋敷地を区画する溝と考えられます。鈴木家に伝わる江戸時代後期に描かれた家相図には、建物を囲むように掘られた溝が描かれていますが、今回見つかった溝は位置関係から、この溝の西側部分と推定されます。屋敷跡の東側では、平成 25 年（2013 年）に実施した 1 次調査において、戦国時代から江戸時代の土器を含む、南北方向に掘削された溝を確認していますが、今回の調査で確認した溝は、この溝と一連のものと考えられ、家相図に描かれた江戸時代の鈴木家屋敷の遺構が残存していることが明らかになりました。広大な屋敷地の中は、母屋を中心とした二重の区画に分けられていたと考えられ、重層的な構造の屋敷であること、これらの区画の起源が戦国時代に遡ることが、発掘調査により確認できました。

この他に屋敷跡の北側からは、鎌倉時代に掘られた複数の溝を確認しています。溝はいずれも同じ方向に掘られており、鈴木家の屋敷地が形成される以前の何らかの区画を示していると考えられます。


江戸時代の家相図

出土した鎌倉時代の山茶碗

新たに確認した屋敷の区画溝


鎌倉時代の溝を複数確認
1次調査で確認した溝
調査溝3
調査坑1
屋敷裏門
トーチカ
氏神覆屋
弓道場的場
調査溝1
土蔵
調査中
離れ家
調査坑2
母屋
弓道場
(矢場)
調査溝2
1次調査で確認した溝
納屋
新たに溝を確認
南側小屋
屋敷門
江戸時代の石敷きを確認
下層から奈良時代・鎌倉時代の土器が出土
調査中
鈴木家墓所
市道中郡107号線
市道中郡106号線
浜名中央用水路
市道中郡70号線
市道中郡69号線
0
1:1,000
50m

調査区配置図

● 1次調査(平成25年)の成果

調査溝1 完掘状況(東から)

調査溝1 完掘状況(西から)

調査溝1 SD08検出状況

調査溝1 SD08擂鉢出土状況

調査溝2 SD01土器出土状況

調査坑2 完掘状況

出土遺物(飛鳥時代～鎌倉時代)

出土遺物(戦国時代～江戸時代)